昔の写真　と　今の写真

とある日、何の気なしに「栖雲寺」とヤフーで検索してみると、お寺のホームページよりも上位にオークションサイトが表示されていて、この絵葉書を見つけました。ヤフーの戦略にまんまと釣られた感じですが、奇跡の縁に目がくらみ、知人に頼み即決で落札してもらいました。

早速、撮影したであろう同じ場所を探し現在の写真と合わせてみました。

寄付を集め修繕の大事業をされた檀信徒の熱い思いが伝わってきます。その苦労も知らず、これらの建造物修復後に住職となってお寺を預かり、活用させてもらえるのは本当にありがたいことです。この貴重な文化財を大切にし、後の世に引き継いでまいります。

令和２年の主な予定

3月17日～23日	春季彼岸
4月19日	摩利支天大祭
6月7日	天目山茶会
7月5日	石庭草刈り、境内清掃
7月27日	開山忌（業海本浄禅師の命日）
8月14日	中峰忌（中峰明本禅師の命日）
9月19日～25日	秋季彼岸
10月3日	山門大施餓鬼会
11月6日～8日	宝物風入れ展・囲炉裏カフェ
11月7日	蕎麦奉納・大般若祈祷会
12月31日	除夜の鐘

栖雲寺たより

天　目

第３１号

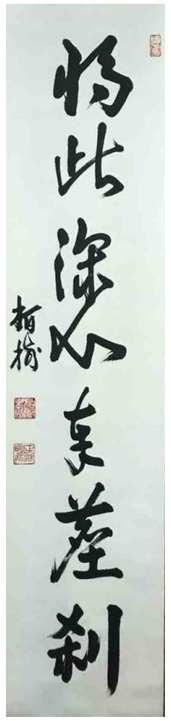
発行日

令和２年２月１５日

建長寺の財務部長　任期満了

栖雲寺住職を拝命して幾星霜、やっとお寺での諸行事にも慣れ、皆様とのご縁も深まってきたものと思っております。

さて、私事ではございますが、このたび令和元年12月11日をもって大本山建長寺および臨済宗建長寺派の財務部長を退任いたしました。建長寺に勤めるようになって早いもので16年。8年間は部員として、そののちは財務部長として、皆様方のご理解、ご支援、ご協力のおかげで2期8年の任期を満了することができました。本当にありがとうございました。もう1期4年のお声がけもいただき思い迷うこともございましたが、栖雲寺への思いは年々強くなり、そして齢72を超え法務も厳しさを増す父親の手助け、また自己錬磨のための時間利用など、いろいろ考えた結果、自身のわがままは承知の上でご辞退申し上げました。建長寺には部員の立場に戻って引き続き週に数日は出勤いたしますが、今後はもう少し栖雲寺に重点を置き、家族との時間も設けながら活動していく予定であり、近年国策として取り組まれている『働き方改革』の自らの実践でもあります。



将此深心奉塵刹　栢樹

この素晴らしい名刹である天目山栖雲寺を後世に伝えていくために、より一層の努力をしていく所存です。

退任の記念に管長様（栢樹老師）から頂戴した掛軸には、『深心＝深い心（仏心）をもって、塵刹＝この悩み苦しみの多い混沌とした世の中に御奉仕する』
と書かれており、栢樹老師からの御垂訓（戒めの言葉）として肝に銘じ、今後の寺院運営をしてまいります。

役職を辞して約3ヵ月、できた時間で栖雲寺には毎週帰りながら、大本山円覚寺での勉強会や京都妙心寺での研修会などにも積極的に参加し研鑽を積んでおります。

より一層の精進を重ねてまいりますので、今後ともご指導ご法愛を賜りますようお願い申し上げます。　　合掌

臨済宗建長寺派　天目山 栖雲寺　　住職　青柳真元
〒409-1201　山梨県甲州市大和町木賊122　TEL　0553-48-2797
http://www.tenmokusan.or.jp［栖雲寺］で検索　ブログ毎日更新

【令和元年　秋冬の報告】

○山門大施餓鬼

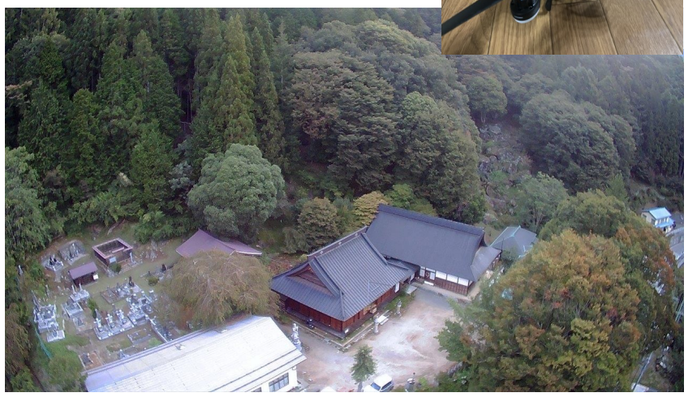
10月6日、縁故寺院の和尚様方にご出頭いただき本堂で施餓鬼法要および先祖供養を厳修。また、それに先立って行われた講談では扇屋文雀師から「天目山勝頼公記」をおはなしいただきました。

○宝物風入れ展　囲炉裏カフェ　法話スペシャル

11月8～10日、毎年恒例の宝物風入れ展を開催。大般若祈祷と蕎麦ふるまい、茶席に講談と盛りだくさん。約500名の来山を得ました。そして今年は７名もの建長寺派布教師にご協力を賜り「私の宝もの」をテーマにした法話をしていただきました。

○ドローン購入

ネットショッピングで買いました。届出不要のおもちゃのわりにはとてもきれいに撮れます。



観　音　募　金

昨年は大きな台風15号と19号があり、栖雲寺境内にも大量の水が流れ込みました。しかし報道で見る被災地の惨劇は凄まじく、栖雲寺の被害などの比ではありません。少しでも復興の足しになればと思い、復興支援活動に力を入れている建長寺観音募金に、お布施やお賽銭の一部を寄付しましたのでご報告をさせていただきます。

世界中のみんなが等しく幸せになれますように、これが仏教の精神です。

栖雲寺で弟子を取りました

建長寺で得度式を行った二人の息子も栖雲寺の弟子に違いありませんが、そうではなく新たに弟子を取りました。在家から僧侶を目指す者です。年齢は43才ですから師僧である私(45)と大差ありません。令和2年1月17日に栖雲寺本堂で得度式を行い法名を授けました。名を『弘敬（こうけい）』といいます。愚弟ではありますが、同じ仏道を志すものとして、この春修行道場に入門させる予定です。皆様方にもどうぞあたたかく見守っていただき、また応援していただけたら幸甚に存じます。

現在は私と行動を共にし、栖雲寺にいるときは寝泊まりをしながら、入門に向けて生活を整え、心を整え、準備をしております。

庭掃除をしているときにある檀家さんから言われました。「新しく住職になるという人がこの方ですか？」そんな話しになっていることにこちらが少々驚きましたが、説明していなかった私の責任。檀家さんからするとそう心配するのは当然だったかもしれません。しかしそのような予定は全くなく、檀信徒に必要としていただけるならば、私は墓場に入るまで栖雲寺の住職を全うする覚悟でおります。未熟者同志ではございますが、今後も弟子ともどもどうぞよろしくお願いいたします。

写真左から
法名・日程・栃・剃髪刀・袈裟

左：弘敬　　右：真元

ごあいさつ

栖雲寺檀信徒の皆様はじめまして、土井弘敬と申します。私は昭和51年に鎌倉の隣り町である逗子に生まれ育ちました。高校を卒業後、横道にそれた生き方をしておりましたが、摩訶不思議なご縁で真元和尚を知ることになり、約3年ほど手紙のやり取りをさせていただいたのちに弟子となる許しを得ました。そして中国唐代の高僧百丈禅師の命日である1月17日に、栖雲寺の本堂に於いて私の両親も列席のもと得度式を修めさせていただきました。その際、師匠となった真元和尚より法名「弘敬」を授かりました。弘は父親の名から一文字、敬は人を敬う心を忘れるなと戒めるものであると師匠から賜りました。

これからは、人を敬い、人から感謝されるよう自分を磨き、師匠のような和尚を目指します。

4月から建長寺の専門道場に入りますが、中年者の入門修行は並大抵なものではないと覚悟しております。しかし一度決めた道を成就させるため精一杯がんばりますので、どうか長い目で見守っていただけたら幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

栖雲寺徒弟　土井弘敬　合掌

2/12, 13 建長寺の入門研修会